

だいきく通信 第五十二号「冬の手」

いあつちつ

今年も残すところ二か月弱となりました。十月の末以来気温の変化が激しく、体調管理が難しい日々が続きます。しかも、これから本格的な冬に向けて、新型コロナウイルスの再拡大が心配されています。どうかみなさまにはこまめな換気や手洗い、マスクの使用など、十分健康に留意してお過ごしいただければと思います。

来年の干支は「癸卯」です。「みずのとう」と読みますが、音読みにすると「キボウ」となります。みなさまにとりまして、「希望」の持てる一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年の干支にちなんだ授与品と、新しい御守りを新年からお出しします。初詣の折、ぜひご覧くださいませ。

社報「だいきく通信」第五十二号をお届けします。

今回の内容は、新年の祈禱受付時間のご案内、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。



新年のご祈禱受付時間

一月一日(日)

午前零時～午前一時

一月二日(月)・三日(火)

午前六時～午後五時

一月四日(水)・五日(木)

午前九時～午後五時

一月六日(金) 初子・初甲子

午前五時～正午

一月七日(金)

午前九時～正午

令和5年の厄年一覧(数え年)

	前 厄	本 厄	後 厄
男性の厄年	24 歳 平成 12 年生 たつ	25 歳 平成 11 年生 う(うさぎ)	26 歳 平成 10 年生 とら
	41 歳 昭和 58 年生 い(いのしし)	42 歳 昭和 57 年生 いぬ	43 歳 昭和 56 年生 とり
	60 歳 昭和 39 年生 たつ	61 歳 昭和 38 年生 う(うさぎ)	62 歳 昭和 37 年生 とら
女性の厄年	18 歳 平成 18 年生 いぬ	19 歳 平成 17 年生 とり	20 歳 平成 16 年生 さる
	32 歳 平成 4 年生 さる	33 歳 平成 3 年生 ひつじ	34 歳 平成 2 年生 うま
	36 歳 昭和 63 年生 たつ	37 歳 昭和 62 年生 う(うさぎ)	38 歳 昭和 61 年生 とら

※近年は女性 61 歳の還暦も厄年とする場合もあります。

お宮あれこれ〜ウサギの話〜

「ごあいさつ」にも書かせていただきました通り、来年の干支は癸卯（みづのとう）で、ウサギ年です。今回は大国様にもゆかりの深いウサギについてお話ししましょう。

ウサギは、生物学的には「ウサギ目ウサギ科」の哺乳類で、ノウサギ類と、飼うウサギの原種のアナウサギ類があるそうです。ウサギは古来から、食用にしたり、毛皮を襟巻にしたり、あるいは実験動物として利用されたりと、人間の暮らしにとって身近な動物の一つです。最近ではペットとしても大変人気があるようです。

日本でウサギを飼う習慣が始まったのは江戸時代末で、それ以前はすべて野生でした。野生のウサギのうち、西日本のものは一年を通じて毛が黄褐色ですが、東日本のエチゴウサギは冬になると保護色の白い毛に生え替わります。そのため、西南日本では白いウサギを珍重し、山の神の仮の姿と考えた痕跡もみられるそうです。ちなみに俳句では「兎」は冬の季語です。これも白い毛に替わることによるものでしょう。

野生のウサギは材木や農作物を食い荒らすため、害獣として扱われました。また、民話ではずるがしこい動物として登場することが多いのですが、これは、聴覚が鋭く、すばしこくて簡単には捕まえないところから来たものだとされます。



ウサギがずるがしこい動物として描かれた代表的なのが、奈良時代の「古事記」「風土記」に見られる神話「因幡の白兎」でしょう。隠岐国から因幡国へ渡るため、ウサギはワニザメをだまして海上に並ばせます。そして、その背中の上を渡っていくのですが、最後のワニザメがだまされたことに気づき、ウサギの皮をはいでしまいます。ウサギは、大国主命（おおくにぬしのみこと）の兄八十神（やそかみ）に言われた通り潮を浴びて、いっそう苦しみます。しかし、そのあとにやってきた大国主命に助けられるというお話です。ここでは、相手をだますずるがしこい側面と、だました相手に報復される無力な姿の両方を持っていることが描かれています。

一方、ウサギをちゃっかりした存在として描く話として、「かちかち山」や「兎と亀」などがあります。「かちかち山」は、一見おとなしそうなウサギが逆にタヌキをだます様子が語られます。

赤兎山（あかうさぎやま・石川県白山市・福井県大野市など）、兎平（うさぎだいら・長野県北安曇郡など）、白兎（しろうさぎ・山形県長井市、はくと・鳥取県鳥取市）など、ウサギにちなんだ地名が全国各地に分布しています。ウサギが登場する昔話の舞台ということなのかもしれません。

ところで、「月の中で兎が餅をついている」という有名な伝説があります。

す。この言い伝えはどこから来たのでしょうか。平安時代末の「今昔物語集」は仏教説話を集めたものですが、その中に、帝釈天がウサギとキツネとサルのお心を試す話があります。帝釈



天は弱った老人に姿を変え、自分を養ってくれと三匹に頼みます。サルとキツネは食べ物を見つけてきますが、ウサギは見つけることができません。そこで、ウサギは自分の身を焼いて供えます。ウサギは死後、誠実さをたたえられ月に住むことになった、という話です。この話の出典をたどると、古代インドの仏教説話集「ジャータカ」三一六話にさかのぼるそうです。

ウサギは、日本の民話ではあまり好ましくない存在として扱われることが多いのですが、国によってイメージにずいぶん違いがあることがわかります。

ちなみに、英語には

“March hare”（三月ウサギ）という言い方があります。三月はウサギの繁殖期に当たるので、ウサギの気が立っている様子をあらわしているようです。ルイス・キャロルの「不思議の国のアリス」にも、変わり者の帽子屋



と一緒に登場します（図）。

昔から現代までごく身近なところにいるウサギですが、付き合いが長いだけにいろいろな側面を見せてくれる動物です。さて、来年のウサギは、大きくぴょんと跳ねて、わたくしたちをどこへ導いて行ってくれるのでしょうか。

参考文献 「以下ジャパナレッジ利用」 『日本国語大辞典』（小学館）、『日本大百科全書』（小学館）、『世界大百科事典』（平凡社）、

祭礼・祈禱などの案内

○次回甲子祭

令和五年一月六日（金） 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行なっております。

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは以下の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

電話 ○三―三九一八―七九三〇

携帯 ○八〇―一九八七―八七二六

メール daikokujinja@gmail.com





(連載まんが)

大吉うさぎ

～神社豆知識 その13～

くま こまち 作



「だいいく通信第五十二号」、いかがでしたか。次号「冬の号」は、令和五年一月六日甲子祭に発行予定です。



ミズくん、男性の神主さんは、何を手に持つでしょう？

でも、女性の神主さんは、物はないものを持つのが正式とされているって、知ってた？

えっ、そうなの？ 知らなかったよ。何を持つ？

じゃあね、次の3つの中から、女性の神主さんの持つものを当ててみて！

1. 扇子
2. 五色の絹
3. 手鏡

うーん... どれだろう...

あっ！ もしかして、1の扇子じゃないかな？

大正解！ 女性の場合は、扇子を握り、横に平らにして手に持つんだよ。

扇子の持ち方

ねえ、どうしてそんなにわかるやつなの？ ちよと、くやしい...

エヘヘ... どれいよね... 僕が正解を選り出すセンスを持っているからだよ！

「だいいく通信」第五十二号 令和四年十一月七日発行
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇—〇〇〇三 東京都豊島区駒込三—二—十一

<http://www.daikokujinja.org>